

☆学校教育目標☆

私たちは仲よく 強く 明るく 伸びる 東小のよい子です

東小だより

あたりまえのことをあたりまえにできる子が育つ学校

令和6年11月29日(金)

特別号

北広島市立東部小学校

北広島市中央4丁目4番地

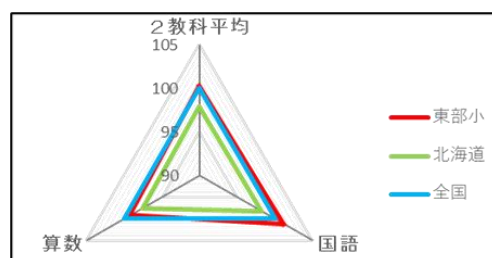
☎ 372-3511

全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

4月に6年生を対象とした全国学力・学習状況調査が実施され、調査結果をもとに分析を進めてきました。全国平均との比較から、本校の傾向が明らかになりましたので、改善策とともにお知らせいたします。今回の調査結果を活用し、子どもたちにより確かな学力を身につけさせることができるよう努力していきます。ご家庭におかれましても、これまで同様、家庭学習の習慣化や生活リズムの確立等、ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 教科全体について

- ①平均正答率は、国語・算数とも、全国平均正答率と比べ「ほぼ同程度」の結果となりました。
- ②国語・算数ともに、無回答率が少なく、問題に対して積極的に取り組んだことがわかります。



2. 国語の調査結果

- ①言葉の特徴や使い方を問う基本的問題は正答率が高く、無回答もほぼありませんでした。特に漢字を書く問題は全国と比較してよくできていました。
- ②記述問題については、物語を読んで心に残ったこととその理由を書く問題でした。自分の考えを書く活動は、日常の授業でも行っているため、全国と比較してよくできていました。
【改善策について】 これまでも行ってきましたが、語彙力をつける学習活動や対話を通して課題解決に迫る授業づくりを更に進めていきます。また、「書くこと」については、表現力を高める工夫をしながら、複数の事柄の関係性をつかんだり、それを表したりする学習を重視していきます。

3. 算数の調査結果

- ①ほとんどの領域で全国水準並みの正答率となりました。例年、課題となっている「図形」や「割合」の問題においても高い得点率となりました。反面「数と計算」の基本問題に誤答が見られました。
- ②記述式の問題では、無回答率は少ないものの、式や言葉を用いて説明することに課題が見られました。
【改善策について】 基礎的な計算力の強化については今後も引き続き取り組んでいきます。「複数のデータの比較」「知識・技能の日常生活への活用」に課題が見られたので、対話を通して数学的な見方・考え方を深めていけるような授業を展開していきます。

4. 児童質問紙から

- ①「人の役に立つ人間になりたい」「夢や目標を持っている」「自分には良いところがある」などの質問で肯定的な回答が非常に多く、児童の自己肯定感が高いことがわかりました。
- ②「国語や算数の勉強は大切だと思いますか?」「国語や算数の勉強は将来役に立つと思いますか?」「国語や算数の授業内容はわかりますか?」などの質問で肯定的な回答が多い結果となりました。今後もわかりやすい授業を行うことで、児童の学習意欲を高めていきます。
- ③「学校の授業以外に1日あたり1時間以上学習している」と回答した児童は全国水準を上回っていますが、「2時間以上学習している」と回答した児童は全国水準を下回っています。学習習慣は身につけていますが、中学校での家庭学習の基準が2時間になることから、6年生は少しずつ中学校の基準に合わせていくことも必要となります。



★市教委 HP に、全国学力・学習状況調査の北広島市報告書がアップされています。そちらもご覧ください。

<https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/detail/00011817.html>

全国と比較して本校児童の平均正答率が低かった問題（国語①）

⑧ 本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。ぜひやってみます。

⑨ 次に、私たちの学校の給食についてしろうかいしたいのですが、いいですか。

⑩ お願いします。

⑪ アイデア給食というものがあります。年2回、自分たちが考えたこんだてが登場します。海に近くて、魚がたくさんとれるので、魚料理などを考えます。みんなでアイデアを出し合ったこんだてが登場するので、アイデア給食と呼んでいます。

⑫ みんなで考えたこんだてが出るなんてうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑬ みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

⑭ はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑮ えっと…【和田さんのメモ】を見返す。二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。

⑯ 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～（交流が続く）～

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願ひします。

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

③ メールありがとうございました。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしろうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

◇設問の趣旨◇

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

◇評価の観点◇

思考・判断・表現

◇正答◇

2

◇問題について

資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要です。また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切です。ここでは、和田さんが、「よく分かりました。おもしろそうですね。」という村木さんの発言を受けて、相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話したことを捉える必要があります。



(2) 和田さんは、村木さんの発言⑧を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。

2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。

3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。

4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

一 『高山さんのメモ』と『高山さんの考え』について、次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高山さんは、文章に書くことを決めるために、どのように考えましたか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 賛成と反対の両方の立場から考えた。
- 2 書きやすい順番を考えた。
- 3 他の人の考えを取り入れて考えた。
- 4 集めた情報の共通点を考えた。

2

高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、『高山さんのメモ』と『高山さんの考え』です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【高山さんのメモ】

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。

◇設問の趣旨◇

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

◇評価の観点◇

思考・判断・表現

◇正答◇

4



◇問題について

伝えたいことを明確にするためには、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが大切です。ここでは、高山さんが、文章に書くことを決めるために、【高山さんのメモ】を書き、集めた情報の中から、「たてわり遊び」と「運動会」の関係性を結び付け、「みんなが仲良しになる」という共通点を考えていることを捉えることが求められています。

全国と比較して本校児童の平均正答率が低かった問題（算数①）

◇設問の趣旨◇

問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる。

◇評価の観点◇

知識・技能

◇正答◇

ア

◇問題について

数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切です。

本設問では、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかを問うています。ここでは、二人が持っている折り紙の枚数の関係について図に表すなどして、こはるさんが持っている折り紙の枚数が、ゆうまさんが持っている折り紙の枚数より28枚多いことを捉え、加法を用いることが必要です。

ゆうまさんたちは、折り紙で遊んでいます。

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。

こはるさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。

こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア $72 + 28$

イ $72 - 28$

ウ 72×28

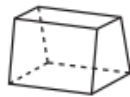
エ $72 \div 28$

全国と比較して本校児童の平均正答率が低かった問題（算数②）

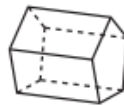
(4) ことねさんたちは、角柱の面の数について考えています。



三角柱



四角柱



五角柱



ことね

三角柱の面は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。



はると

四角柱の面は6つです。



ひより

五角柱の面はいくつかな。

五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。

また、そのわけを、底面と側面がそれぞれいくつあるのかがわかるようにして、言葉と数を使って書きましょう。

そのとき、「底面」、「側面」の2つの言葉を使いましょう。

◇設問の趣旨◇

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

◇評価の観点◇

思考・判断・表現

◇正答例◇

【五角柱の面】 7 (つ)

【わけ】 五角柱には、底面が2つ、側面が5つあるからです。

◇問題について

図形を構成する要素に着目し、図形の性質について考察できるようにすることが大切です。

本設問では、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかを問うています。ここでは、五角柱について、向

かい合う合同な五角形が底面で、底面に垂直な長方形が側面であることを捉えることが必要です。その際、五角柱の面の数の理由を記述する上で、「底面が二つあること」「側面が五つあること」の二つの事柄を書くことが必要です。